HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学　女子バスケットボール部　R5.1 NO.10

@っとひろしま！つながるキャンペーンに部員３名が参加

大学生も使ってみたい製品が多数ありました

令和５年１月21日(土)広島都市学園大学自習室で行われたこのキャンペーンは、障害のある人たちが活動する障害者福祉事業所で作られた製品を広く知ってもらうために、県内の大学生から意見や感想を聞いて製品作りに生かすというイベントであり、広島県就労振興センターの主催で行われた。本学の他には広島大学、修道大学、広島文化学園大学から学生が参加した。参加した学生はアイスブレイクの中ですぐに打ち解け会話も弾んだ。試験週間中のこの日は練習もなかったためバスケ部からは関口、鵜池、科野の３名が参加した。

３・４人ずつのグループに分かれて製品を試食したり、手作り工芸品を手に取ったりしながら活発に意見を出し合っていた。翌日の中国新聞にもその様子が紹介された。

～部員の感想～

- どの製品も素晴らしい出来でびっくりした。もっと沢山の人に製品の良さが広まって欲しいと思った。
- 他の大学の学生と一緒に食品の試食や、製品の改善点などを話し合い交流できたことがかった。

障害者福祉事業所の商品

若者感覚で魅力向上へ

南区で学生の意見聞く会

焼き菓子を手に取って意見を交わす学生たち

県内の障害者福祉事業所が手がけた食品や雑貨などの魅力アップを目指し、若者から意見を聞く会が21日、広島市南区の広島都市学園大であった。販売促進を図ろうと、県が企画。同大、広島修道大など4大学の学生17人が多彩な声を寄せた。

広島大教育学部2年の天野琢希さん(20)は「一つ一つの品質の高さに驚いた。友人や家族にも伝える」と話した。特設サイト「@っとひろしまで「つながるキャンペーン」で2月13日まで注文を受け付けている。(岡沼位晃)

74セットのうち広島市や福山市などの事業所が出品した30セットを並べた。学生は菓子を試食したり、さをり織りのポーチを手に取ったりして「クッキーの種類が多くて良い」「包装に色合いがもう少し欲しい」などと意見した。

令和５年１月22日(日)

中国新聞